

大会の基礎知識

国際大会	オリンピック	
	ISU 選手権	
	<ul style="list-style-type: none"> 世界選手権 世界ジュニア選手権 ヨーロッパ選手権 四大陸選手権 	<p>1～3月に開催される、すべての国に開かれた大会。 (もちろんヨーロッパ選手権はヨーロッパの、四大陸はそれ以外の国々のみ) 四大陸以外では、1国から複数のエントリーが可能かどうかは 前年の成績による。注1</p>
	ISU グランプリシリーズ	
	<ul style="list-style-type: none"> スケートアメリカ スケートカナダ 中国杯 エリックボンパール杯 ロシアカップ NHK 杯 グランプリファイナル 	<p>10～12月に開催され、 前年度の得点ランキング上位者など選ばれた者だけが出場できる大会。注2 ファイナルはシリーズの成績上位者が進出できる。 元々は独立した大会だったが、ISUによってまとめられた。</p>
	ISU ジュニアグランプリシリーズ	
	<p>8大会とファイナル 開催地は不定</p>	<p>8～10月に8つの大会が開催される。エントリーについては注3。 シリーズの成績上位者は12月ごろのファイナルに進出できる。</p>
以上の大会はISUの管轄下であり、そこでの得点はISU公式記録となる。以下では一部の例外を除いて参考記録。		
国際大会	その他の国際大会(シニア)	
	<ul style="list-style-type: none"> ネーベルホルントロフィー ゴールデンスピン カールシェーファーメモリアル フィンランディアトロフィー ネペラメモリアル など 	<p>すべての国に開かれた大会。 9～11月に開催され、GPシリーズに出られない選手も多く参加する。 結果として World Standings のポイントが加算される場合が多い。</p>
	その他の国際大会(シニア・ジュニア・ノービス)	
	<ul style="list-style-type: none"> メラーノカップ ニースカップ クリスタルスケート ロマンメモリアル NRWトロフィー など 	<p>すべての国に開かれた大会。</p>
	その他の国際大会(特別なカテゴリによるものなど)	
	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーシアード アジア大会 など 	<p>特定の選手しか出場できないため、Standings のポイントは加算されない。</p>

国内大会	• 日米対抗戦	変則的で、エキジビション的な大会。
	• 全日本選手権 • 全日本ジュニア選手権 など	

- (注 1) 順位をポイントに置き換え(16 位までは順位そのまま、17 位以上は 16 ポイント、フリーに進めなかった者は 18 ポイント)、その合計(3 人出場の場合は上位 2 人分)で次のように決まる。(ISU 規定 378 条 2 項)

1 人出場の場合	2 ポイント以内→3 枠獲得	10 ポイント以内→2 枠獲得
2 人以上出場の場合	13 ポイント以内→3 枠獲得	28 ポイント以内→2 枠獲得

なお、オリンピックでは、世界選手権と異なって全体のエントリー数がシングル 30 人、ペア 20 組、アイスダンス 24 組と限られており、すべての国に 1 枠があるわけではない。2 枠以上が与えられる場合は同様に直前の世界選手権の結果で決めるが、1 枠を与える国についても一定のところ(シングル 24 枠、ペア 16 枠、アイスダンス 19 枠)まで、その世界選手権の結果で(上位の選手から順に)決めてしまう。残りについては(上記を辞退した分も含め)、オリンピック予選会を指定し、そこで決定する。(ISU 規定 400 条)

- (注 2) ISU 規定で決められているわけではないので、シーズンに先立ってその都度発表される。以下は 2007 年の例。

- まず、世界選手権 6 位まで(欠員が生じれば、その 6 人・組以上のシーズンベストスコアを有する者、世界選手権 7 位～の優先順で補充)が、2 大会ずつシードされる。明記されていないが、通常上位 3 人・組が第 1 シード、残りが第 2 シードとして 6 大会に分散される。
- 次に、世界選手権 7 位～12 位の 6 人・組(欠員が生じれば、その 6 人・組以上のシーズンベストスコアを有する者、世界選手権 13 位～の優先順で補充)は、2 大会保証される。明記されていないが、通常第 3 シードとして各大会 2 人・組ずつ分散される。
- Standing 24 位以内、またはシーズンベストスコア 24 位以内は、1 大会保証される。
- 世界ジュニア 3 位以内、またはジュニア GP ファイナル 3 位以内は、1 大会保証される。
- 開催国は上記も含めて 3 人・組まで自国の選手を出場させる権利がある。
- 各大会の出場枠は、シングルが 10～12 人、ペア 6～8 組(※)、アイスダンス 8～10 組であり、残りはシーズンベストスコア 75 位以内から選ばれる。
- シングル・アイスダンスでは、出場できるのは 2 大会。ペアでは、ポイントは付かないものの 3 大会目も有り得る(上記※を満たすため)。
- 1 つの国から一度にエントリーできるのは 3 人・組まで。

上のようにいろいろと決められているが、シングルなら最大でのべ 72 人がエントリーできるわけで、シーズンベストスコア 24 位ぐらいまでなら 2 大会が十分に割り当てられる。また、引退やジュニア残留、あるいは当初エントリーがあっても故障などで辞退する場合が少なくないので、結果的に見れば、シーズンベストスコア 35 位ぐらいまで広げても 2 大会出られる可能性は高い。

なお、シーズンベストスコアは ISU 公式記録しか認められないため、位置付けとしては、ISU 管轄の大会に出場し、そこで好成績を収めた選手たちに用意された特別なステージということになる。

(注3) シニア同様シーズンに先立ってその都度発表されるが、シニアと違って選手の入替わりが激しい(年齢のこともあるし、また好成績を収めてシニアへ上がる場合もある)ため、出場枠は国に対して与えられる。以下は2007年の例。

- 【シングル】世界ジュニア選手権上位5カ国(ポイントに置き換えるわけではなく、その国の最上位選手の順位=国の順位)は、8大会すべてに2人ずつ出場させられる。続く5カ国は8大会すべてに1人ずつ出場させられる。その他フリーに進出できた国は7大会に1人ずつ出場させられる。以下略。ただし、開催国は3人まで可能。
- 【ペア】すべての国が3組ずつ出場させられる。ただし、開催国は無制限。
- 【アイスダンス】世界ジュニア選手権上位5カ国は、8大会すべてに2組ずつ出場させられる。その他の国は8大会すべてに1組ずつ。開催国は3組まで可能。

年齢区分

シーズンは7/1~翌年の6/30。

その初めの時点で何歳になっているかによって、出場可能なカテゴリが決まる。(ISU 規定 108 条 2 項)

- オリンピック・世界選手権・ヨーロッパ選手権・四大陸選手権は15歳以上。
- GP シリーズなど、その他のシニア国際大会は14歳以上。
- 世界ジュニア選手権・ジュニア GP シリーズなど、ジュニア国際大会は13歳以上で、かつ下を満たす者。
 - 男女シングルについては、19歳未満。
 - ペア・アイスダンスについては、女性が19歳未満、男性が21歳未満。

シングルに関して、日本の学年との対応は右の通り。シニア・ジュニアどちらも可能な年齢では、当事者が選択する。

両方出るのも構わないが、演技時間が違うなどの困難が伴う。

ただし、ペアを除いて、ジュニア GP シリーズと GP シリーズは掛け持ちできない。

学年	年齢	ジュニア	シニア
大学2年	7~3月生まれ	19歳	シニア
大学1年	4~6月生まれ	18歳	ジュニア 6年目
高校3年	7~3月生まれ	18歳	ジュニア 6年目
高校3年	4~6月生まれ	17歳	ジュニア 5年目
高校2年	7~3月生まれ	17歳	ジュニア 5年目
高校2年	4~6月生まれ	16歳	ジュニア 4年目
高校1年	7~3月生まれ	16歳	ジュニア 4年目
高校1年	4~6月生まれ	15歳	ジュニア 3年目
中学3年	7~3月生まれ	15歳	ジュニア 3年目
中学3年	4~6月生まれ	14歳	ジュニア 2年目
中学2年	7~3月生まれ	14歳	ジュニア 2年目
中学2年	4~6月生まれ	13歳	ジュニア 1年目
中学1年	7~3月生まれ	13歳	ジュニア 1年目
中学1年	4~6月生まれ	12歳	ノービス
小学6年	7~3月生まれ	12歳	ノービス
小学6年	4~6月生まれ		